

ミドリワラビ *Deparia viridifrons* (Makino) M.Kato

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、補正+1 (シカ食害)、総点 16。全国的に見てもそれほど多くない種類で、県内でも生育地が極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

夏緑性の多年生草本。根茎は短く横走り、葉を接近してつける。葉柄は長さ 40~60cm、葉身は三角状広卵形、長さ 30~70cm、幅 25~60cm、やや薄い草質で、3 回羽状に切れ込む。小羽片は広披針形から卵状披針形、羽状に深く切れ込み、中軸の翼がはっきりしている。胞子のう群は裂片の中肋近くにつき、長さ 1mm 以下である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山 (芹沢 72233, 1995-8-21)。西：19 旭 (芹沢 93198, 2017-9-3)。各 1 カ所に小群落がある。

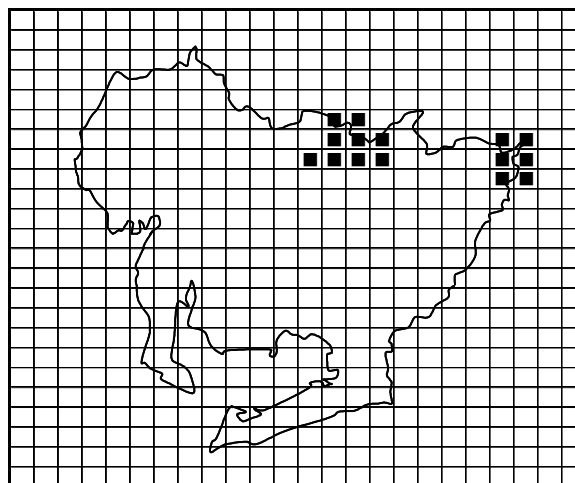
【国内の分布】

本州 (日本海側を除く)、四国、九州に分布するが、多いものではない。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島南部、中国大陸中部。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

沢沿いの湿った林内。愛知県の自生地は、どちらも造林地である。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  | ○  |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

【現在の生育状況／減少の要因】

富山の群落は近況を確認していないが、当時も林内の光条件が悪化し、衰退気味であった。この自生地周辺では、近年シカによる林床植物の食害が著しく、すでに絶滅した可能性が高い。旭も激減して、ごく僅かに残存しているにすぎない。

【保全上の留意点】

生育地の個別的な保全が必要である。個体数調整などの草食獣の増加への対策も、緊急を要する課題である。

【特記事項】

オオヒメワラビ *D. okuboana* (Makino) M.Kato に似るが、葉の切れ込みが深い。

【関連文献】

保シダ p.131, 平シダ p.244, 学シダ II p.342, SOS 旧版 p.40.  
倉田 悟・中池敏之(編). 1990. 日本のシダ植物図鑑 6: 852-855. 東京大学出版会, 東京.